

考えることを楽しみ、学びをつなぐ言語力の育成
～論理的に伝える力を伸ばす、国語科の指導の工夫～

目指す児童の姿

- 自分の思いや考えを論理的に伝える子
- みんなと一緒に課題解決に取り組む子
- 相手の話をよく聞き、認め合える子

育成する資質・能力

- 言語を適切に使うことができる知識・技能
- 順序立てて自分の考えを話す力・書く力
- 豊富な語彙力、豊かな言語感覚

**何を学ぶか
教育課程の編成**

- 児童が主体的に取り組もうとする授業展開をする。
- 国語で身につけた資質や能力を発信できる場を設定する。
- 「野登に学ぶ教育活動」を系統的、計画的に実施する。
- 朝の短時間学習の計画的な実施。
- 学校図書館を活用した教育活動。
- 「学習の基盤となる資質・能力」を意識した年間指導計画の作成と充実。

**どのように学ぶか
授業の実施**

- 国語科を中心に論理的な表現を学ばせる。
- ペアやグループの協働学習場面を、授業に位置付ける。
- 「めあて」と「ふりかえり」の工夫。
- 「野登小学校 学習の約束8」を徹底し学習規律を確立する。
- 野登小授業スタイルを確立する。
- なかよし集会における表現活動を充実させる。
- 他教科と関連付け、身についた力を活用する。

**実施するために何が
必要か
指導体制の充実、家庭や地域との連携**

開かれた学校づくり

- 学校運営協議会を軸とした学校運営
- 家庭と連携したノーゲーム・ノースマホデイの実施
- 地域との連携による学校行事の充実

児童の発達支援

- 「子どもの理解委員会」による支援方法の検討
- 低・中・高別人権集会の充実

**何が身についたか
学習評価**

- 他教科や日常生活において、言語活動に広がりがあったか。
- 理由や根拠をもとに話したり書いたりすることができたか。
- 進んで読書し、語彙を増やすことができたか。

(1) 授業づくり

- ① 考えることを楽しむ
- つけたい力を明確にし、見通しを持つことのできる単元計画の作成。
 - 主体的に取り組もうとすることができる言語活動例の提示。
 - 多様な意見・考えを出すことのできる場面の設定。
 - 適切な距離を保持した上での目的のあるペア・グループ学習。

- ② 学びをつなぐ言語力
- 教師が言語感覚を高め、児童の言葉に敏感になる。
 - 児童の語彙力を高めるための学習活動を取り入れる。
 - 単元ごとにふりかえりを書く。

③ 野登小授業スタイルの確立

授業展開	内容	留意点
1 つかむ	「めあて」の提示 (青)	・本時の学習に見通しをもたせ、意欲を引き出すめあてを設定する。 ・めあてに子どもの疑問や問いかけを活かす。 ・具体的な学習活動を示す。
2 考える	自分の考えを書く。	・考えの根拠となるものを明確にする。 ○挿絵(写真)・図・グラフ等の資料 ○本文の叙述 ○これまでの話し合い(掲示物で提示) ○各自の知識や経験 ・思考のプロセスがわかるノートづくりをさせる。
3 話し合う 深める	ペアまたはグループで話し合う。 全員で交流する。	・板書で意見を整理し、対話が深まるよう、考えを教師がつなぐ。 ・一人ひとりの考えを多様な方法で伝え合わせる。 ・意見の相違点・共通点にも注目させながら、話し合いを深める。
4 まとめる ふりかえる	めあてに正対する 「ふりかえり」を自分の言葉でまとめさせる。(赤)	・ふりかえりの視点を提示する。 ・児童のふりかえりから、学習のめあてや過程は適切だったかを検討し、次時の課題に活かす。

(2) 学習への土台づくり

- ① 基礎学力の向上
- 本読み計算、本読み言葉で繰り返し学習し、基礎学力の定着を図る。
 - 「野登小学校 学習の約束8」を基にした学習規律と、基本的な聞く姿勢の指導の徹底。
 - 補充学習「のびのびタイム」を毎月設定し、基礎学力の定着を図る。
 - 家庭学習の手引きの配付や、家庭学習の内容の交流を通じた家庭学習の向上。
 - eライブラリーを中心にICT機器を活用した基礎学力の定着を図る。

- ② 学習環境の充実
- 「声のものさし」「話し方・聞き方」「ふりかえりの視点」の提示。
 - 互いに関わり合い、認め合える学級づくり。